



竹林の風

栃木県教育委員会事務局
河内教育事務所
令和3年10月21日
発行責任者 宮澤文洋
http://www.pref.tochigi.lg.jp/m51/
kawachi-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

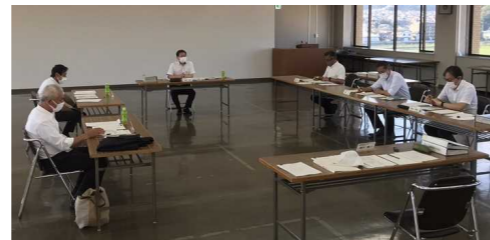
第2回河内宇都宮地区教育長会議・市町教育委員会連合会定例会

令和3年10月11日(月)、河内庁舎大会議室にて今年度第2回目となります。河内宇都宮地区教育長会議を開催しました。主な議題は、令和4年度教職員定期異動方針等の人事関係や教育に関する国の動きの最新情報等です。また、教育事務所と地区教育委員会連合会の共催となります。河内宇都宮地区小中学校長会議の内容についても、事前に御協議いただきました。

例年ですと、教育長会議に引き続き、上三川町及び宇都宮市の教育委員様方に合流いただき、河内宇都宮地区市町教育委員会連合会定例会を開催していますが、新型コロナの感染拡大防止の観点から書面での開催としました。また、教育に関する研修会を併せて開催し、地区の教育事情等についても情報交換する予定でしたが、今回はそちらも開催見送りいたしました。

河内宇都宮地区市町教育委員会連合会とは、河内管内の教育の振興を図るために上三川町教育委員会と宇都宮市教育委員会が相互に、共通する内容について連絡調整を図るための組織です。構成員は両市町の教育委員の方々に、事務局は河内教育事務所におかれています。

さて、令和3年10月1日現在で構成員の異動がありましたので、お知らせいたします。まず、上三川町教育委員会ですが、吉田由美委員は再任されました。引き続きよろしくお願いいたします。



- ◆上三川町教育委員会 ◆宇都宮市教育委員会
- 氷室 清 教育長 ○小堀 茂雄 教育長
- 清水 智生 委員 ○伊藤 三千代 委員
- 吉田 由美 委員 ○大森 玲子 委員
- 関 美恵 委員 ○檜山 昌彦 委員
- 松枝 健一 委員 ○小野 真一 委員
- ◇事務局:河内教育事務所

宇都宮市教育委員会の伊藤 一委員は9月30日をもちまして任期満了となりました。これまでの御尽力に心から感謝いたします。ありがとうございました。それに伴いまして、10月1日付で小野真一委員が就任されました。本地区の更なる教育振興に向けて、お力添えをいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

令和3年度 とちぎ教育賞表彰式を挙行

10月13日(水)、栃木県公館にて、とちぎ教育賞表彰式を挙行しました。御案内のとおり、とちぎ教育賞は、日々の実践を通じて顕著な教育効果を上げている教育関係職員について、栃木県教育委員会が表彰するもので、今年度は県立学校を含めて県内で50名、河内管内では8名の教職員が受賞されました。大変おめでとうございます。受賞者代表の挨拶の中で「子供たちの笑顔に支えられてここまで頑張ってきた…」の言葉が心に残りました。



- ・上三川町立上三川小学校 齊藤 豊 教諭
- ・宇都宮市立陽南小学校 齋藤尚子 教諭
- ・宇都宮市立錦小学校 高瀬早苗 教諭
- ・宇都宮市立泉が丘小学校 齋藤亜沙美 教諭
- ・宇都宮市立宮の原小学校 松島清香 教諭
- ・宇都宮市立陽南中学校 渡辺香織 教諭
- ・宇都宮市立清原中学校 手塚智久 教諭
- ・宇都宮市立上河内中学校 直井大輔 教諭

素敵な読書ライフ 所長補佐(総括)兼総務課長 市村 彰

みなさん、こんにちは！

今年の4月に「所長補佐(総括)兼総務課長」に着任しておりました「市村」と申します。半年も経って今更ですが、改めて挨拶を申し上げます。

さて、何を書こうかと思案した時に、季節は「秋」で、配布先が「学校等」であれば、私の数少ない趣味の一つの「読書」の中から、みなさんに是非読んでいただきたい「作品」を紹介したいと思えます。

ただし、紙面の都合で、「1冊」のみの紹介ですので、あしからず。

私が読んでいる分野は「ミステリー小説」で、なかでも、丁寧に読み始めて一つのピースを当てはめていっても、最後には、予想を見事に覆すような結論になる、いわゆる「大どんでん返し系」の作品を好んで読んでおります。

特に、下記作品は、「ミステリー小説」でもあり、「ファンタジー小説」でもありますが、必ずや読んで「後悔」という言葉がまず浮かばない、自信を持ってお届けする作品です。



かがみの孤城：辻村深月

この作品は有名なもので、読んだ方も多いのかも知れませんが、敢えてここで出すのは、初読の方には絶対おすすめ作品であり、既読の方には、どのように伏線が張られていたのかを検証するのもまた楽しいのかも知れないと思ったからです。

2018年本屋大賞受賞作(※本屋大賞とは、全国の本屋さんが是非売りたいと思う作品を投票して選ばれる賞で、毎年実施しています。)で、大賞受賞作品の中では、過去最高得点をたたき出している作品です！

ちなみに、この作品は現在、上・下巻の文庫本でも発行されていて、長編モノはチョットという方もいらっしゃるかも知れませんが、章ごとの中で、更に細かく分かれていますので、短編並みに読むこともできます。

【あらすじ】

⇒ 同級生から受けた仕打ちが原因で不登校が続き、子供育成支援教室(スクール)にも通えずに、部屋に引き籠る生活を続けていた主人公の中学一年生の女の子が、ある日、自室の鏡が突然光り、鏡の向こうに行くとそこはお城で、自分と似た境遇を持つ中学生6人と出会い、彼らとともに冒険していく。というのがストーリーです。

【ポイント】

(1) 主人公がお城の中で聞いたことや話していたことが、現実世界に戻ると何か矛盾を感じてしまう、果たしてそれは何故なのか、その真実は何なのか？ということを知りたくて、どんどん読み進めていくと最後に「大どんでん返し」を食らうことになるわけです。

(2) このお城には「オオカミさま」という、狼のお面をかぶった城の案内人の役目を果たす謎の少女がいます。物語の終盤には彼女の正体が判明するシーンがあるのですが、そこは感涙・感動必至モノと言わざるを得ません。

⇒ どんでん返しだけでなく感動モノまで味わえる、「1粒で2度美味しい！」アーモンドグリコのようなところからも、また本屋大賞で過去最高得点をたたき出したのも首肯できる後世に残したいと思える作品です。 では、秋の夜長を彩る素敵な読書ライフを！



教職員一人一人の誇りと品格は 教育への信頼を確たるものにする

～ 風通しのよい職場づくりは 「報・連・相の徹底」 から ～